

夢クエストに登壇した講師陣



百姓庵・井上雄然さん

経済、環境問題に疑問を感じ、百姓を目指すため脱サラ。山口県油谷島で自給自足の暮らしを営み、手づくりの釜吹き塩を製造している。現代人が忘れがちな、生きていくための「糧」と農業の大切さを生徒に教えた。



カゴノオト・前成照さん

調理師、農家、カフェ経営など様々な職種の失敗の経験を活かし、四万十町で焼き菓子づくりをはじめ、地域の農家の果物を使ったシュトーレンを全国に販売。生徒たちに壁にあたるうちに本当の目標が見えてくると説いた。



旅行作家・石田ゆうすけさん

世界中の景色を「自分の目で見るために、2002年に自転車で行った世界一周旅行に挑戦。盗難や病気などの困難を乗り越えて達成し、その中から「旅行作家」という天職を得た体験談から、「夢の実現方法」を語った。

様々な地域・業種の先生から生き方を学ぶ

特別授業 夢クエスト



— TURNSでは「第一学院 managaraBASE」とともに、取材などで出会ったさまざまな地域や業種のプレイヤーを招いて「夢クエスト」という特別授業を展開。登壇した講師たちの生き方が、生徒たちはどのように映ったのだろうか。

井上雄然さん「金持ちじゃなくて糧持ちになりたい」を聞いて
角田蓮さん
— 井上さんは自給自足の暮らしを中心に話してくれましたが、どこがいちばん印象に残りましたか？
「井上さんの食品に関するお話が一番心に響きましたね。井上さんは都会の喧騒から離れて、あえて自然の厳しさを受け入れることを選んだということ



角田蓮さん(高校生)

ろが、「そんな生き方もありなんだ」って印象に残りました。僕は塩に対しても、今まで調味料としてあって当たり前という認識しかなかったんですが、いちから時間をかけてつくっているんだよってことを教えてくれた。食べ物も、都会に比べると加工されている、最初から食べ物として存在しているものかと思っていますが、改めて命が終わって食品に加工されているんだって実感させてくれました。自分が自給自足の生活ができるかどうかという難しいですが、だからこそ、人ができないことを進んでやっていることがすごいと思いました」

— お話を聞いたことが自分の中でどんなふう役に立ってきそうですか？



徳田真白さん(高校生)

「自分と違う価値観とか、趣味を持っている人と出会ったときに、『それってどういうことなの？』って聞いてみたり、共感できたりとか。今までよりもっと色々な人ともっと関わられるようになるのかなって思います」

前成照さん「あれこれ試して発見した自分の道」
石田ゆうすけさん「夢の実現方法」を聞いて
徳田真白さん
「前成照さんは今、シュトーレンで成功されていますが、以前じゃカフェ経営で失敗したり、うまくいかなかった、やっとお菓子作りにたどりついたというお話でもとても共感しました。『自分は飽きっぽいので、やる気を出しても続かない』

「私は、中学の3年間はロンドンで暮らしていたんです。ロンドンには都会で、近所の人とあまり面識がなかったんで、すれ違ったら『おはよう』って言う関係とか、地域で繋がりがあっていうのがいいなあって思いました。つながりがある環境にあこがれますね」

— 旅行作家の石田ゆうすけさんの授業では、自転車世界一周の旅を実現した体験を話していただきました。

「旅の途中で体調が悪くなったり、砂漠を横断したり、といったお話を聞いているうちに、私が今ちょっと悩んでたりすることって、すごく

「ロンドンではいろいろな宗教の人がいて多様性を大事にする文化がありました。日本には足りないなと思うところが結構あります。海外の経験を活かしてなにかできないか、多様性を理解して、何か活動したいなと思うようになりました」

— 現在活躍している人たちも、さまざまな「寄り道」を経験して現在に至っている。時には失敗が大きな成長を生むこともある。「夢クエスト」の授業で講師たちのそんな姿を知り、共感すること、生徒たちは自分の中にも、さまざまな可能性や価値が眠っていることに気づいていく。



第一学院 managaraBASE 池袋

Report

第一学院 managaraBASE
https://www.managara-base.jp/

「BASE」から、地域とつながる、世界が広がる。

様々な出会い、経験を通じて生徒たちが成長する新しい学びの場

文・編集部 写真・渡部聡

オンラインコミュニケーションの普及で、教育の形が急激に多様化している現在。コミュニケーションの手段を活用すれば、教室という垣根を飛び越えて、日本、そして世界中の人とつながって学びを得ることが可能。

昨年春、池袋に開校した「第一学院 managaraBASE」はこうした新たな学びの形を具現化した「場」。生徒たちは「BASE」に集い、従来の枠に捉われない授業で様々な出会いを体験しながら、自分で自分のありべき姿を発見していく。高校生を中心に、大学生、

中学生と幅広い年齢の生徒が集うのも「第一学院 managaraBASE」の特徴で、今年からは梅田校もオープンしている。

カリキュラムのなかで「第一学院 managaraBASE」が大切にしているのが「地域とのつながり」。各地の人、文化に触れることは日常とは異なる価値観との出会いであり、生徒の内面に新たな可能性の火を灯すきっかけにもつながっていく。開校から一年が経った「第一学院 managaraBASE」の特色ある授業と、生徒たちの成長をレポートした。

加藤碧衣さん(高校生)と清原一朗さん(大学生)



生徒たちの手でつくるコミュニティカフェ

ポップアップカフェ テラコヤカフェ

第一学院 managaraBASEでは「地域とつながる」活動として、以前TURNSでも紹介したことのある「NPO法人テラコヤ」と連携し、生徒たちが運営するポップアップカフェ「テラコヤカフェ」を実施している。メニュー・レシピ、価格から集客にいたるまで、生徒たちが相談して決め、運営。2月後半に東京単独で実施されたカフェは4人の生徒が切り盛りし、店内はお客様で賑わっていた。「夢クエスト」の授業の話の中でコミュニケーションの大切さを知り、次は自分でそうしたコミュニケーションをつくりたいと思うようになりました」と語るのは加藤碧衣さん。「テラコヤカフェ」の他にも、クラスメイトとともにカフェの運営にトライしているという。

最初はカフェの営業時間を長く設定しすぎて疲れてしまったりと慣れない部分もあったというが、回を重ねるごとに改善され、生徒

カフェの営業報告会も実施
4回のカフェを経て3月末に行われた営業報告会では「テラコヤ」のサポートでカフェを運営した他の学生グループとともに収支報告や工夫した点、感想や課題などを発表して共有。カフェ運営のなかで経験したことのない多くのチャレンジがあり、それらを生徒たちが自ら改善しつつ、短期間で成長していった様子が見て取れた。



たちの接客や調理の手際も良くなってきた。

「カフェの経験で、ボランティアなど、地域のために手伝えることをもっとしたいと思うようになりました。また、経営にも興味をもったので、他の場所でも活かせたらと思います」(清原一朗さん)

カフェを通じ、生徒たちはお客様さんや地域との関わり、その中で自分の役割や「やりたいこと」を発見していく。BASEを起点に生徒たちは、教室の外に広がるたくさんの先生たちとつながっていく。